

今日のトピック 戻り基調が継続する日本株式市場 「電気機器」の業績モメンタムは改善方向、広がり注目

ポイント1 戻り基調が継続する日本株式市場 昨年安値から2桁の上昇

- 日本株式市場は、日経平均株価が約4カ月ぶりに2万2,000円台を回復するなど堅調に推移しています。昨年12月25日の安値から4月15日までの上昇率を見ても、日経平均株価が+15.7%、東証株価指数（TOPIX）が同+15.0%、小型株を代表する指数であるTOPIX Smallが同+18.4%と、2桁の上昇となり堅調です。

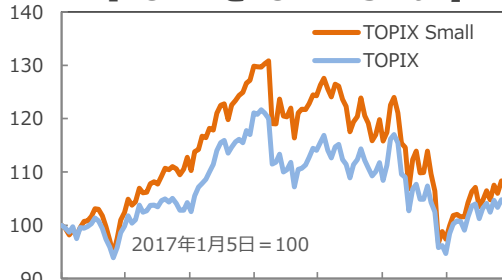
ポイント2 予想株価収益率に割高感はない 主な上昇要因は外部環境の好転

- ここまでの株価上昇は主に、米国株式市場の上昇や中国景気に対する懸念の後退など、外部環境の好転によってもたらされています。足元（4月15日）の予想株価収益率はTOPIXが12.6倍、TOPIX Smallが14.1倍とともに割高感はありません。

今後の展開 「電気機器」の業績モメンタムは改善方向、他セクターへの広がり注目

- 今後の日本株式市場は、外部環境の好転が継続することと日本企業の業績見通しに明るさが見えることがカギとなりそうです。外部環境は、依然としてトランプ大統領の貿易交渉は懸念材料ですが、米中景況感に明るさが見え始めており、好悪材料が交錯する可能性があります。一方、日本企業の業績見通しは引き続き厳しいものとなりそうです。業績予想の勢い（モメンタム）を見るリビジョンインデックスを見ると、TOPIXが▲30%台を付けた後好転の兆しが見えたものの、再び低下しています。TOPIX Smallは悪化に歯止めはかかっているものの、回復傾向は強まっています。また、主要業種で見ると、「電気機器」の下振れ度が低下し、改善方向に向かっているものの、「情報・通信」、「輸送用機器」は悪化に歯止めがかかっていません。4月下旬以降に発表される、3月期決算企業の2019年度の業績見通しで主要セクターの業績に改善傾向が確認できるかが注目されます。

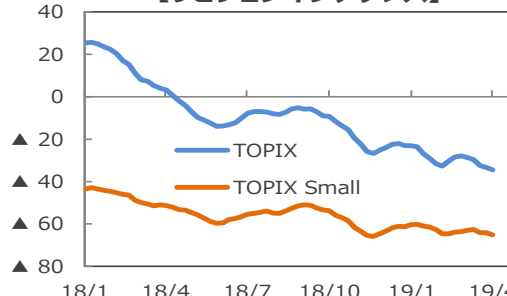
(ポイント) 【TOPIXとTOPIX Small】



17/1 17/5 17/9 18/1 18/5 18/9 19/1 (年/月)
(注) データは2017年1月5日～2019年4月15日。週次。

(出所) QUIICKのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(%) 【リビジョンインデックス】

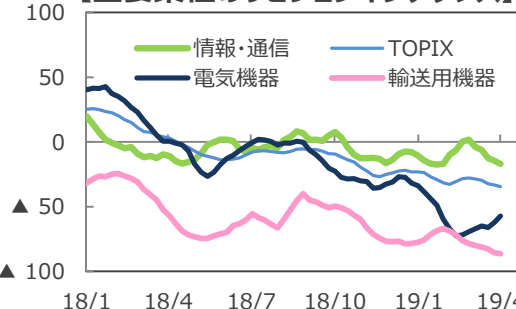


(注1) データは2018年1月4日～2019年4月4日。週次。 (年/月)

(注2) リビジョンインデックス：(上方修正銘柄数 - 下方修正銘柄数) ÷ (上方修正銘柄数 + 下方修正銘柄数) で計算。4週移動平均。12カ月先予想（当期純利益）。予想はI/B/E/S。下図も同様。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(%) 【主要業種のリビジョンインデックス】



(注) データは2018年1月4日～2019年4月4日。週次。 (年/月)

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

* 三井住友アセットマネジメントと大和住銀投信投資顧問は4月1日に合併し、三井住友DSアセットマネジメントになりました。

ここもチェック! 2019年4月15日 市川レポート「日経平均株価22,000円台回復後の展開」
2019年4月15日 『10連休』の株式市場への影響は？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。